

柘植地域 まちづくりだより 第270号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)
〒五一九一四〇二二
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三
柘植地域俳句コーナー
カフェーにも
日直のあり
チューリップ
中西 澄子

発行日 2021(令和3)年7月1日(水)



柘植まち協・役員会開催

遅れて居りましたが『柘植地域まちづく協議会』の役員が先月末に漸く決定の運びと成り、6月7日、「役員会」が開催されました。

『柘植地域まちづくり協議会』は平成16年(2004年)に設立され、立ち上げに寄与された岡島久司氏(元・上野高校 校長)が、初代会長に就任(2期在任)以降、岡島正尚氏・岡本武和氏・清水一利氏(2期在任)、阪井則行氏・半田三都生氏・城出憲一氏と続き今般、町田盛次氏が第10代(8人目)の会長に就任致しました。

此の17年間の『柘植地域まちづくり協議会』の経緯の中で、平成27年(2015年)と、平成29年(2017年)の2年間、会長不在(空席)と為る事態に陥り先行き危惧された次第ですが、今回も難航。結果、新たな役員体制の基で心機一転「柘植地域のまちおこし」に向け始動し始めた次第です。

先月の第269号に掲載致しました会長就任

挨拶の中で表明しておりますが「まちづくりビジョン」の筆頭に掲げた『未来の山づくり』事業は、岡本栄市長を座長とする伊賀市全体の事業構想の一環として推進するものであり、柘植地域の産業興隆の中核を成す事業です。

町田会長の具体構想として『霊山』の中腹に「桜」を植樹し「桜の山」として整備。桜の下には「ミツマタ」を植栽し黄色の花のみならず、高級「和紙」の原料としても育成して行く事業計画です。

本植樹植栽活動は「治山・治水」の観点からも『防災』に資する事業と捉えています。

そして、『柘植の特産品創出』事業として、『コンニャク』『ヨモギ』等を栽培し、その「加工品」を各種生産し、然るべき場所にて「販売」してゆく計画です。

『綺麗なモノを見て、美味しいモノが食べられれば、自然と人は集まります。』

「大和街道」美化計画も其の一環で、近隣の様々な「旧街道」が在る中で、柘植地域の「大和街道」が最も整備が遅れて居り、美観

面でも他に比べて非常に見劣りすると云われています。此の点に鑑み大和街道の美観向上が今後の課題と位置付けております。左記に新役員を紹介致します。



前列中央が新任の町田盛次・会長、前列右端から、宮田隆司・副会長(上村区長・区長長)、松山隆治・副会長、岡山恵美子・副会長、西田哲也・副会長(中柘植区長・副区長長)後列左端から内田泰成・書記(事務局長)、服部聖子(会計)、清水則雄・市民センター長(事務局次長)

柘植まち協5部会等 開催さる

『柘植地域まちづくり協議会』に於ける、5つの「部会」と『防災委員会』が6月4日から順次開催され、遅延しておりました「部会長」「副部会長」及び「委員長」「事務局長」が左記通り決定した次第です。(敬称略)

【教育文化部会】 部会長・松山文雄(留任)
副部会長・坪健治(留任)

【人権同和部会】 部会長・橋本浩信(留任)
副部会長・堀井信雄(新任)

【健康福祉部会】 部会長・増岡茂樹(新任)
副部会長・岩倉唯之(新任)

【生活環境部会】 部会長・堀田稔(新任)
副部会長・藤井広司(新任)

【産業交流部会】 部会長・林田一雄(新任)
副部会長・松山隆治(新任)
副部会長・岡山恵美子(新任)

【防災委員会】 委員長・町田盛次(新任)
事務局長・服部文昭(留任)

【人権啓発推進委員会】 委員長・橋本浩信
【福祉ネットワーク会議】 議長・柘植美智代
【スポーツ推進委員会】 委員長・中川秀紀

前記、3名(留任)

運営委員会 開催さる

上述通り、5つの部会長及び副部会長、更に4つの委員長等が決定した事を受け、遅延しておりました令和3年度の『運営委員会』が6月18日に開催されました。

『蔓延防止等重点措置』が6月20日迄延長された事に伴い、柘植地区市民センターに於いても午後8時迄に終了せねばならず、午後6時半から約1時間半での時短実施しました。



議事は、左記

の『定期総会』に諮る議案として、令和2年度事業報告・決算報告・監査報告／令和3年度事業計画・予算案に関して各部会・各委員会に於ける事業内容(実施計画)の概要について諮問した次第です。



おつねです

定期総会は書面表決

現下のコロナ禍に於いては3密を避けねばならず、80人を超える会合は不可に尽き、先の「臨時総会」同様『書面表決』と為りました。6月28日午後開票結果、全員賛成を以って上述「議案書」は原案通り可決され令和3年度に於ける「柘植地域まちづくり協議会」の運営に関わる事業他、各部会・委員会が推進する事業は全て承認された次第です。

☆☆ 編集後記 ☆☆☆

▼『夕立の雲間の日陰 晴れそめて山のごなたを 渡る白鷺』『藤原定家』・夏の夕立が止んだ後、雲の間から日が射し始め、山のこちら側を白い鷺が飛んで行く情景を詠んだもの。藤原定家の生きた時代へ平安末期から鎌倉時代初期へは公家社会の終焉に伴い武士が台頭する激動期。混乱した中世を生き抜いた定家は日本を代表する歌道の「宗匠」として永く仰がれて居ます。

▼「白鷺」が飛び交う里の光景は800年以上経過した令和の現在でも今尚日本各地で見られ、白鷺の生息環境は未だ保たれて居ます。絶滅危惧種の生物が急増する現時点で、地球環境保全は待った無し。様々な災禍をもたらす異常気象や激甚災害を如何に食い止め地球を守るのか・・・人類の責務で有り叡智を試されています。

▼七月「文月」の由来は、七夕に「詩歌」を献じた事からと云われております。(清水)